令和５年度　第２回
川合市長と語り合うタウンミーティング

～二十歳のつどい実行委員会～

日時：令和５年１０月２６日（木）
　　　午後６時００分～午後７時３０分
場所：川越市南公民館　講座室１・２号

参加者

二十歳のつどい実行委員会　　８名

出席者

市長、宮本副市長、総合政策部長、市民部長、文化スポーツ部長、
都市計画部長、学校教育部長

意見数

分　類	件数	内　容	頁
教育・文化・スポーツ	3	・川越市立美術館へカフェを併設することについて ・小中学校の自由選択制について ・二十歳のつどい実行委員会について	3
都市基盤・生活基盤	3	・川越の交通について ・蔵造りの町並みでの歩行者の安全について ・本川越駅のバスターミナル乗り場について	2 4 11
地域社会と市民生活	2	・カーブミラーの見直しについて ・客引きの取り締まりについて	
計	8		

意見交換（要約）

《川越の交通について》

意見

川越シャトルはたくさん走っていますが、どれもバスの運行間隔が不均等であると日々感じております。例えばさいたま市、戸田市、蕨市、川口市など川越市の近隣の自治体であれば、人口規模や町の面積の違いはありますが、概ね本数が多いところで３０分間隔、それ以外は１時間ないし２時間で間隔が決まっているところが多いのですが、川越市の場合、現状はっきりと運転間隔が決まっている路線というのはなく、私が常に利用している路線では大体３０分から１２０分の間隔が空いていて、その他の路線でも５分間隔のところもあれば昼間の時間帯で２５０分間空いているなどかなり不均等になっており、バスの本数があるところでも昼間の時間なのに１５０分バスがやってこない。そこを改善していただけるのであればしていただいて、例えば１時間間隔にする、またはバスのパターンダイヤを導入する、分かりやすく毎時３０分に出発すると、住民の方々もあと少ししたらバスが来ることが分かりやすくなって、よりバスの利用の促進に繋がるのではないかと感じております。

それから、川越市内には今はシャトルバスが１３路線あり、川越市はとても面積が広く、網目状にたくさん住宅や公共施設の近くまでバスを伸ばさなければならないということで路線も多くなるのですが、それが複雑性を生み、地域住民に分かりづらい形態になってしまっておりますので、改善をしてシャトルバスがどこを走っているのか分かりやすい形態にしていただければありがたいと思います。

また、川越駅東口のバス停が駅のロータリーの外にあり、駅から階段やエスカレーターを移動するので、特に高齢者の方々などが移動に少し不便なのではと思い、また、特に雨が降っていると、屋根がついていないため高齢者の方で傘を忘れている方がいつも濡れていて、私が傘を貸してあげるということも今までにあり、屋根の設置なども検討していただければありがたいと考えております。

都市計画部長

パターンダイヤになっていないというご意見について、川越シャトルは１３系統の路線を現在１０台のバスで運行をしております。１台のバスが複数系統を掛

け持ちするような形で運行をしている状況ですので、どうしても併行して複数系統を走れず、長時間の間隔が空いてしまうといったことが発生してしまっております。

路線の複雑化について、基本的に川越シャトルは民間の路線バスでは走らない交通空白地域、例えば住宅地の中といったところを走っています。そうしますとバスが運行するにあたって、ご利用者やバスの運行時の安全性を確保するため、道路の幅や停留所を設置するにも十分なスペースが必要であり、そのような中でどうしても走るルートというものが限定的になってしまい、できるだけ利用可能でかつ安全な運行が可能なルートを選んでいると、結果どうしてもここが走行ルートなのかというような、単純ではないルートになってしまっているのではないかと思っております。

本数が少ないといった点は、どうしても元々民間の路線バスが走らない、必ずしもご利用が多くて運行の収支が良好な路線ではないので、厳しい経営状況の中、それでも可能な限り必要とされるところを走っていくという意味で、引き続き効率的な、よく使われる路線について運行をしながら、川越シャトルについてできるだけ維持をしていきたいと考えております。

《川越市立美術館へカフェを併設することについて》

意見

私はいろいろな美術館によく行きますが、鑑賞後、芸術を楽しんだ後は、ゆっくり余韻に浸るような時間や場所が欲しいので、カフェなどによく行っております。しかし、川越市立美術館とその周辺にはカフェが少なく、ゆっくり余韻に浸れるような場所を作ったらどうかと思ったのと、蔵造りや一番街には人通りが多いのですが、美術館周辺には少ないと思っているので、カフェを併設することによって、にぎわいが増えるのではないかと考えました。

文化スポーツ部長

例えば都内には、たくさんのカフェがあり、場所によっては時代をタイムスリップしたようなカフェであったり、また近未来的な空間のものカフェだったり、また庭園に癒されるような、様々な空間を持ったカフェが多くあることは認識しております。アートを鑑賞した後に立ち寄る雰囲気のカフェというのはやはり格

別だと思います。そのような素敵なカフェを、美術館も切望しているところではあるのですが、敷地が狭隘なため、カフェの併設が難しいのが現状であります。

現時点では、隣接する博物館の方に喫茶がありますので、そちらの方をご案内している状況でございます。

今後、近隣の初雁公園、その周辺整備がある場合に、カフェの設置についても検討していく必要があるのではと考えております。

また、美術館に設けるカフェなのですけれども、あるデータで、素敵なカフェについては半径２５ｋｍ移動するというのが統計で取られているということなので、今後川越市内によりにぎわいを持たせる、また蔵の町並みでなくて、ちょっと離れた美術館や博物館の方にぎわいを持たせるためには、そのような素敵なカフェの併設もやはり一つの方法ではないかと考えております。

市長

美術館の建物内にカフェを作ることは建物に余裕がなく、難しいと思います。また、カフェのために建物を増築するのも、敷地が狭く、駐車場部分が狭くなってしまいます。

最近、公園の中に民間のレストランやカフェを作ることができるようになってきましたので、今、行政の方でも、民間の協力は必要ですが、初雁公園などにカフェを作っていきたいと思っておりますので、美術館内には困難ですが、そちらの方を期待していただいた方がいいのではと思います。

都市計画部長

いいアイデアだと思いますので、積極的に考えさせていただきたいと思います。

《蔵造りの町並みでの歩行者の安全について》

意見

歩行者として蔵造りの町並みを歩いているときに、車が危なかったり、逆に車に乗っているときに歩行者の方が危なかったりするため、意見を出させていただきました。

問題点として、お店に並んでいる人が道に出てしまうこと、人気観光スポットということで歩いている人が大変多い。そして、車道と歩道の区切りが曖昧なところがあって、ちょっと危ないという意見があります。

自分の案としては、何か景観を崩さないような、小さいガードレールというか、ガードレールを張ってしまうと真っ白になってしまって景観を崩すことになると思うので、何か少しでも区切りがあれば、歩道と車道の曖昧さというのがなくなるのではと思います。

歩行者天国にしてしまうという意見もあって、いろいろな条件が付くと思うのですが、やはり歩行者や観光客等がいてかつ道が狭いということで、通行できる車について近くに住んでいる人の車や、公共交通機関、配達用車両以外の車を禁止にしてしまって、ほぼ歩行者しかいないという状況を作ってしまうのもいいのかなと思います。

都市計画部長

１点目の、歩道と車道の区切りを設けてはどうかというご提案に対しまして、縁石などを設置しようとする場合には、一番街の景観に配慮したようなものであったとしても基本的に地元の方との合意形成が必要になっております。その上で一番街は川越まつりのときに山車が通るため、物理的なものを設置してしまうと山車を引く際の支障になってしまうということが懸念事項として考えられる他に、商店が並んでいますので、狭い道路の中で搬出入をしなければいけないときに支障になってしまうというようなことから、なかなか地元の合意形成が実際上は難しいのではないかと考えております。

併せて、歩行者天国など車両の流入を減らすような取り組みができないかということで、具体的には公共交通や搬入車両に限定できないかというご提案は、市の方でもそのような交通規制を新たにかけることをこれまで議論してきた経緯があるのですが、その中でまだ実現に至っていない背景としまして、一番街のエリアが多くの観光客の方に訪れていただいているというだけではなく、多くの方が住んでいるエリアであり、生活している方にとって重要な生活道路として機能しているということから、必ずしも公共交通とその商業用の搬入車両だけ許可するとはいかないため、市としては地元の方の生活と、たくさんいらっしゃっていただいている観光客の方とどのような形で折り合いをつけていくことができるのか、それと、何を市民の方が望まれているのかといったようなことをじっくりと議論をしていかなければいけないと考えております。このようなことについて今後、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

市長

今の一番街の交通問題は、かなり前から課題になっていることでありまして、平成１８年頃から３年位かけて、地域の人や警察、交通事業者などが集まって、一番街の交通円滑化方策検討委員会というのを作って検討して、平成２１年に「一番街は北から南への一方通行にするのがよい」という答申をいただきました。一方通行や歩行者天国というのは、公安委員会が認める必要があり、答申をもらって、公安委員会の方に北から南への一方通行にしたいと申し入れをしようとしましたら、地元からの反対があり、公安委員会からもう少し地元調整するように求められ、頓挫した経緯があります。このように交通方策として歩行者天国や一方通行にするのは、地元の皆さんの相当程度の理解、了解がないと困難です。

今、市としましても１０数年一番街の構想、方策について、地元の皆さんと話し合いをしながら、少しずつ検討を進めているところです。

ガードレールの様なものを作ったらよいのではとのご意見がありましたが、一番街は山車が通るのでガードレール等があると山車の運行が妨げられるのですが、お祭りのとき紅白幕を立てるために柱を立てる穴が道路に開けてあるので、それと同様な取り外し可能なガードレールを作って、一番街に合う少し渋い色の木製のガードレール等にして、お祭りのときはそれを全部取り外すというやり方もあると思ったので、それも方向性として検討してみたいと思います。

宮本副市長

私も長く都市計画部門にいて、先程の交通方策について検討していた時にも都市計画や交通を担当していましたので、今ご意見いただいたように、考えていただく事はとても大事で、市民の皆さん色々な立場があって難しいので、どのような町がいいか、こうしたらいいのではという意見を皆さんに考えていただいて出していただくのは良いことだと思っております。

今日本の中でも観光客が多くなっていますけれども、ウォーカブルシティといって、歩く人を中心のまちづくりをしましょうというような考え方の都市もあります。川越も北部市街地の方は、そのような町並み、そのような町の作り方をしたらいいのではないかということで、北環状線という川越の外側のバイパス道路のような道路を作って、町中に車がなるべく入らないような町の構造にしようといったことも並行してやっておりますので、地域の方と話し合ってこれからも

やっていく事も大事です。それから、ガードレールの話は以前も検討はしていて、熊谷のお祭りのときには縁石が裏返るのもありますが、そうなるとかなりの手間がかかるので今度は撤廃だという話が出てきます。また、あれだけの人数だと、出っ張りがむしろ危なかったりする。川越の場合は一番街の道幅が９ｍから１１ｍしかないので、そうすると、車道３．２５ｍとると、２車線で７ｍぐらい必要ですから、そうすると、歩道が１ｍもないというような状況になるので、難しいところです。

みんなで知恵を出し合って、地域の方と一緒に決めていかないとなかなか難しいというところで、こうして意見を出していただいて皆さんで考えるのはとてもいいことだと思いますので、よろしくお願いします。

意見

高校生の頃に学生論文の執筆にあたって、地元の川越の観光を取り上げさせていただいて、歩行者天国という話題で、平成２２年度に川越市と埼玉大学共同で川越一番街の交通環境改善に関する社会的実験研究を行ったデータを拝見しました。そちらに関して、平成２２年度から令和５年現在までの間にそのような社会的実験は見受けられてはないので、例えば歩行者天国の導入の是非ではなくて、機会があれば社会的な実験を行うだけでも、今価値があるのではないかと考えています。

また、社会的実験研究の施策のサイトにつきましては、川越市スペース歩行者天国等で検索すると埼玉大学の論文が出てくるので、気になる方は、一度目を通してみてください。

宮本副市長

平成２１年に社会実験やったとき私担当しておりまして、平成２２年に取りまとめて、答申が出ました。結果から言えば、それなりに効果があるという結果が出ていて、しかしながら、やはり感情的にあちらが通れなかったらこちらが混んでしまうというように、気持ちは簡単に頭では割り切れないところもあり、歩行者優先のまちをつくるというような社会、意識醸成をすることも必要なのではないかと思います。また、市の方では、その後フリンジパーキング、もしくはパークアンドライドと言いますが、周辺に車を停めて町中に歩いてきてもらう、他の交通手段で来てもらうというような実験も並行してやってはいるのですが、なか

なかそのようなパーキングの対策だと１００台２００台という程度ですので、少しずつ効果はありますが、具体的な結果としてはすぐに見えにくい。そういったことで、またそのような社会実験を検討してやるというのもいいと思いますが、結果としてなかなか難しい結果となったので、その後また新たに取り組むというのが、今は準備段階ということでご理解いただければと思います。

意見

先ほどの議題は、観光客の方が歩いているところに、迎え入れる私達がどうするかという、例えばガードレール作るというような話だったと思いますが、私は山田に住んでいて、蔵造りの通りを通らないと駅に出ることができません。北環状線もありますが、かなり遠回りになるため利用は現実的ではないところで、蔵造りの町並みを通るしか駅に行く手段がなく、歩行者天国や一方通行には反対します。今、山田は住宅地が増えていて、家族連れの人にとってもそれは難しいかなと思っていて、それでしたら、観光客の方にマナーを守って歩きましょうとか、いい例えではないかもしれませんが、外国の方が急に飛び出してきたりしてバスが渋滞になってしまったりなどが多いので、京都のように、マナーを守ってくださいと強めに観光客の方にいうことができたらいいのではと思いましたが、どうでしょうか。

市長

歩行者天国も、平日の通勤時間帯ではなく、例えば土日のみ午前１０時から午後３時か４時ぐらいまでというように限定して歩行者天国にするのでしたら、市民の皆さんの通勤などへの影響は少ないのではと思っておりますが、それでもなかなか実現するには、地元の皆さんやバス事業者の皆さん等と十分話し合って、理解・了解が得られないと、なかなか難しいということになってしまいます。

そのため、反対のお気持ちはよくわかりますけれども、選択肢としてはこのようなものもありうるということも頭の中に入れておいていただけたらと思います。

宮本副市長

おっしゃる通りその気持ちは大事なのですが、社会実験で一方通行は既にやってみて大きな影響は出てはいないので、そういう方法ではどうかということを答申したのですが、残念ながらやはり感情的になかなかご理解いただけなかったところです。先ほど山田に住んでいて、駅に出るにはそこしか通れないので導入と

なると困ってしまうという話がありましたが、道はどこも繋がっていて、特に自転車や車であればいろいろ通ることができる一方で、観光客のためにやるという話になってしまうと、それは駄目だと思います。川越市民として北部市街地の辺りを歩く人優先の町にしたらどうかと。先ほど京都の例が出ましたが、京都も歩くまち宣言をやっていて、市民自らそのようなことをやって、なおかつ観光客の人にも守っていただく。川越でも川越仕草といって、道を譲る等やりましょうというのは一生懸命アピールしていて、一見の観光客の方に浸透はなかなかしないのですが、そういったこともしていて、みんなでいいまちにしていくようにできればと思っておりますので、それぞれが絶対にこうするというのはなしで、いろいろ是々非々で議論されていくといいのかなと思います。

意見者

先日、土曜日に川越の町並みを歩く機会がありまして、その時感じたこととあわせて意見を述べさせていただきます。

まず、ガードレールや縁石などを、景観を損なわないように置いてみてはどうかという話がありましたが、歩行者の数が多い現状において、例えばガードレールを設置しますと、人気店の前や信号待ちなどどうしても人が集まってしまう場所に人が詰まってしまい、おそらくガードレールの外側に出て歩いてしまう人が出てきてかえって危険が増すのではないかということと、加えて、縁石がない場合は人と人がぶつかっても白線から少し外側にでるくらいで少し危なかったくらいであるのが、縁石がある場合は、縁石につまずいて倒れ込んでしまったら大事故に繋がってしまうようなことが考えられると思います。

あと、歩いていた時に思ったのは、車の方はとても歩行者に気を使って走ってくださっていました。一時停止はしっかり止まるし、信号も青でもそんなにスピード出さずに、ゆっくり走っている。それに対して歩行者のマナーがよくないのではないかと思いました。土曜日ということで観光客の方々も多かったと思うのですが、一番人が通る大通りのところで立ち止まって写真を撮る人が大勢いて、そのため車道に出て歩いている人もたくさん見受けられて、全体として歩行者に対するマナー啓発が徹底できると、もう少し根本的に安全になるのではないかと思いました。

都市計画部長

長年の懸案事項ということで、市では一番街の交通錯綜の問題に取り組んでおりますが、必ずしも交通ルールのことだけではなくて、その中では観光客のマナーについての啓発活動もしっかり取り組んでいかなければいけないということで、まだまだ浸透してないところであるとは思いますが、引き続きしっかり取り組んでいきたいと考えております。

意見

蔵造りの町並みに人がたくさん集まって危険ということで、ガードレールや縁石をつけたらどうかという話だったのですが、川越には中院や喜多院、伊佐沼といった中心地以外にもたくさん素敵なところがあり、このような少し離れたところまで行けるようなスタンプラリーが実施されてはいますが、認知があまりされていないと思っております。ガードレールなど物理的なものを設置するというのではなく、スタンプラリーといった、もう少し他のところに分散できるような取組ができるのではないかと考えました。

総合政策部長

１ヶ所に観光客の方が多く来てしまう、これはオーバーツーリズムといいます。まさに今、一番街がそのような状況になっているのかなと思います。

川越市には一番街の蔵づくりだけではなく、今お話いただいた中院など色々なところに色々な名所があるといったところで、観光客を分散させていくといいますか、色々なところを回っていただきたいということは市の観光の担当部局でも考えております。そのような中で、観光マップであったり、スタンプラリーを実施してみたりというような取組も進んでいます。それだけではなく、そのようなところは歩いて巡ってもらえるようにということで、歴史的地区環境整備街路、通称歴道というような、いわゆる石張り舗装の道路というような道を皆さんも通ったこと、どこかであるのかなと思うのですけれども、そのようなところによって、１ヶ所だけではなく道も含めて面的な広がりも持たせていきたいと考えて進めているところでございます。ご意見をいただいたということにつきましては、改めて観光部局や、道路を建設する部門といったところにも私の方からお伝えさせていただきたいと考えております。

《本川越駅のバスターミナル乗り場について》

意見

本川越駅のバスターミナルは１９路線のバスが停まりますが、東武バスウエストは６路線あるのに対して乗り場がバスターミナルから少し離れた場所に１ヶ所で、その東武バスが蔵造りの町並みを通っていて、特に観光客の方が使う場面が多いと感じております。

列を並ぶにも、バスの乗り場ではバス停に屋根がついていて、その屋根の通りに並んでいるところが多いと思いますが、こちらの６路線あるバスターミナルの乗り場は、バスの乗り場の天井に表示がついておりまして、①②というような表示の後ろに並ぶというような仕組みになっております。

市民の方で、普段から利用されていると思われる人は表示に並びますが、観光客と思われる方は、普通のバス停と同様に並んで表示と方向が違っていて、かつ何種類も来るのでわからなくて、来たバスに乗ってしまい、並んでいた人よりも先に、並んでいなかった人が乗ってしまうというところをよく見かけます。

また、バス停のすぐ後ろ側に本川越駅ペペの自転車の駐輪場があり、雨の日に傘をさしていると駐輪場の方に列が延びていて、自転車で来ていた方がなかなか自転車を出せないという様子もよく見受けられます。

市民の方の使う場面での難しさと、観光客の方が慣れていないというところでの難しさが感じられたので、こちらのバスターミナルの改善を少ししていただけたら嬉しいなと思いました。

やはり運行バス会社の影響や、本川越駅が西武線ということで、少しバスターミナルの配置があるのかなと私も感じているのですが、表示を変えるか乗り場の配置を変えていただけると、観光客も市民の皆さんもより良く過ごせるのではないかと思ったので、提案させていただきます。

都市計画部長

東武バスの本川越駅のバス停は複数のバスが乗り入れをしておりまして、例えば一番街に行くバスというのが４路線ぐらいあって、一番街に行きたい人はどれに乗っても行くことができたりします。でも、次何が来るかわからないので、どこに並んでいていいかわからないといった、日常使われない方にとっては大変使いにくいというような状況は見ております。東武バスでもそのような状況についい

てご認識をいただいておりまして、今後、今年度中ぐらいに、本川越駅のバス停でデジタルサイネージの設置についてご検討されているところです。そうしますと、次何番のバスが来ますよ、その次は何番ですよと表示されるので、次のバスに乗る人は、ここの列に並んでくださいという形で運用の見直しをご検討されているところです。

市としましても、本川越駅は特に観光客の方にとって川越の玄関口にもなるような、大切な駅だと思いますので、そのようなことも踏まえて、市としてもバス事業者の取り組みに支援できるよう、補助などを今後もさせていただきたいと考えているところです。

《カーブミラーの見直しについて》

意見

私は住宅街に住んでおりまして、左右の見通しが悪い丁字路があるのですが、そこにカーブミラーがありません。以前はカーブミラーが設置してありましたが、住宅街の発展に伴ってカーブミラーが除去されてしまうということがあり、そのためよく自動車同士が交通の不便さを感じるようなシーンを見ていました。

私から提案させていただきたいこととしては、住宅街などがあって、設置が難しいところでも、どうにかして適用できるようにできないかということと、カーブミラーの設置数の全体的な見直しをできないのかどうかということを提案させていただきます。

市民部長

現状、市内で約６，０００のカーブミラーがあり、設置には一定の基準を設けて対応しているところです。

現場の状況によってカーブミラーが設置できない場所もありますので、カーブミラー以外にも例えば、止まれや飛び出し注意といった表示を路面に表示する、あるいは看板を設置するという様々な方法によって、交通安全対策を実施しているというのが現状でございます。

市で点検してはどうかというお話につきましては、例えば交差点の角に建物が建つなど住宅状況は日々変わっていきます。そのような地域の危険箇所の把握は、現場の状況を最も把握している地域の方や自治会の方などから、ここが危険だと

いった情報や要望をいただいて、市の職員が実際に現場を見に行って、その場所に合った、カーブミラーも含めた交通安全対策のどれがいいのか、状況により検討しております。

《小中学校の自由選択制について》

意見

自分が通っている学校より登校時間が短いところがあるのにも関わらず、学区の関係で遠いところに通うことになってしまっているという現状が、私の小学校の頃にありました。

子供たちの学習時間や遊びの時間を確保するためにも、通学時間が短くなるよう、学区にとらわれず学校を子供たちが任意に選択できるようにならないでしょうか。

学校教育部長

学区につきましては、学校教育法の施行令によって、市が何ヶ月前までに指定をして入学届けを出すと定められています。そのように指定をしているところで、どうしても学校の近くではない、少し距離が長めの方が出てきてしまうというのが現実としてあります。また、文部科学省の方で出している適切な通学距離がありまして、それが小学校では４ｋｍ以内と言われています。

近い学校に通っているお子さんと、場合によっては家の後ろに学校があるのに少し遠めな学校に通っているお子さんがいるということもわかっている状況です。

学校が徐々に増えていった経緯の中には、児童生徒数の増加、自治会の関係等色々な事情がありながらその地域に建っているという部分もありますので、学校を指定している部分から柔軟に選ぶのは難しい状況であると思っております。学校の適正な規模というものもありまして、子供たちが学習をしていくために必要な規模もあります。児童生徒数によって教職員の配置も決まってまいりますので、柔軟性を持たせて好きな学校に通うということになると、毎年この学校はどのくらいの人数が集まるのかわからなくなってしまい、去年まではこれだけ先生の人数がいたのにも関わらず、翌年度は先生がたくさんいなくなるという不都合が生じないとも限りません。あとは、学校の施設の設備上の都合もあります。そのため、ある程度一定の境界線を持って指定していくことは、致し方がないと思って

おります。

しかしながら、お子さんによってはいろんな都合、心身の都合や、今は部活動がどの中学校にも全部が揃っていないので、幼い頃から習っていたスポーツが入学を指定されている学校にないというような場合には、保護者の申し立てによる申請で教育委員会と協議をして認めていくという状況があります。現在はどの自治体もそのような形で対応している状況です。何年か前に、選べる自治体さんもあったと認識はしておりますが、色々な課題が出てきて、また徐々に元に戻していっているような経緯も聞いておりますので、現状のまま進めさせていただきたいと思っております。

意見

回答内容は理解しまして、自治会の関係などで難しいというのはわかりますが、学区そもそもの設定を、学校と学校のできるだけ中間地点になるように区切って学校を設定するということはできないのでしょうか。

学校教育部長

様々な経緯により学校が徐々に建ってきた中で、川越は元々色々な村が統合して今の市の形になっている状況もあり、学区の中心に学校があるという状況ではない地区があることも認識しております。今後考えていくべきことではあると思いますが、適正な配置には、適正な規模という部分も十分考えていかなくてはならないので、ご意見は参考にさせていただきますが、様々な事情があるというところはご理解いただければと思います。

意見

特に小学校に関して、距離も重要ですが、通学路の安全性が最も重要であるのではないかと思い、私の場合、二つの中学校の中間に住んでいたのですが、通っていた中学校ではない中学校に通うとなると、危ない橋を渡る必要があって通学路に危険な場所があり、そのように学校によっては小学生の通学班を作るにあたって通学路に問題が発生してしまうのではないかと思いました。そこを考えられた上で学区を指定されていると思いますので、少子化について、さらに通学班ができなくなってしまった学区に対しての調整などは必要かと思いますが、あまり大きな変更をすると、通学路の安全性や通学班などの面で問題が発生するのではないかなと考えました。

学校教育部長

学区につきましては、子供たちの通学の安全性も考慮しながら、ある程度の範囲を決めているという経緯もあります。

特に小学生は集団登校、集団下校ができるような、安全性というところが重視されている部分があります。今、学校は、コミュニティスクールと言って地域と一体となって学校を作っていくというような時代になっておりますので、ある程度地域の分担となっているところもあり、そういったことを考慮した上で学校を決めていった方が、地域と一緒に子供たちを育てていく、いろんな大人が関わっていくというところに繋がっていく、そして先ほど言っていただいた安全性というところには本当に重要なことだと考えております。

《客引きの取り締まりについて》

意見

クレアモールを通った時に、「お客さん今、うちのお店安いよ、お酒飲んで行かない？」といった声かけがまだ絶えないという印象がありまして、このような声かけについて調べてみたところ、声かけに対して悪い印象を持っている方がある程度いました。また、迷惑防止条例法というものがあることも調べてわかりましたが、客引きが条例に違反しているかどうかというのは、調べてもよくわからず、もし違反であるとしたら、客引きの取り締まりについて、証拠などを送るなど少し強化して、市のイメージアップをしていくと良いのではないかと考えました。

市民部長

実態として、クレアモールにおいて居酒屋などの従業員と思われる方が、道路上に立って通行人に対して声をかけるなどの行為をしているということは市としても把握しております。このような行為につきまして、埼玉県の迷惑防止条例というものがございます。その中で執拗な方法で客引きをする行為を禁止しており、違反した場合には罰金等の罰則が科されるという状況でございます。

警察も定期的に現地をパトロールしているというお話は伺っておりますが、禁止行為の取り締まり方法につきましては、実際捜査等を行うのは警察の管轄になりますので、先ほどご提案ございました証拠写真を送るといった対応について、

警察の方が実際捜査や罰則の適用につながるかどうかは警察の判断になり、その点については警察の方に委ねられている状況でございます。

市におきましても何かしらの対策がとれないかと、今検討している状況でございます。

意見

納得しましたが、私が気になった点としまして、調べても客引きが迷惑防止条例に違反するか分かりませんでしたので、私が体験した、少ししつこめに声をかけるというのが、実際に迷惑防止条例に違反しているのかいないのか気になりましたので、回答をお願いできればと思います。

市民部長

埼玉県の条例で、運用は埼玉県でしておりますので、一般論でご説明させていただきますが、そのような不特定多数の方に声掛けしているのは、この条例には該当しないのではないかと思います。

しかし、特定の方に、例えば目の前に立ちふさがって進めないようにする、完全に隣について寄り添ってずっと歩いていくような、執拗な方法でというのが条例上の形ですので、違反しているかどうかは警察の判断というのが実態ではないかと思います。

市長

実際に迷惑防止条例違反となるには、袖を引っ張って離さない、立ちふさがって前に行かせてくれないくらいの行為がないと、迷惑防止条例違反とまでは言えないかと思います。先ほど写真を撮って警察に送ったらどうかというご提案もあったかと思いますが、やはり現行犯でないと、写真だけではどのような状況なのか全くわからないので、警察官が現地にいて目撃した、あるいは被害届があったというようなことがないと、なかなか処罰には結びつかないというのが現状です。

意見

例えば別の地域の繁華街では警備員が巡回していて、川越市でも終日ではなくても、例えば土曜日、日曜日や、夕方から夜の一、二時間程度警備員が１人から２人配置できれば、抑止力になるのではと考えまして、その点について回答をお願いいたします。

市民部長

迷惑防止条例に基づいて対応している中で、例えば警備員の配置といった対応をするというのも一つの方策だと思います。

また、クレームがある客引きに対して、市がどのようなことができるか今検討している最中でございますので、そういったことも視野に入れて今後検討してまいりたいと考えております。

《二十歳のつどい実行委員会について》

意見

実際に二十歳のつどい実行委員を務めさせていただいて、実行委員をやった際に、事務局の皆さんにもっと早めに準備を行った方がいいと言われてきましたが、なかなか当日まで実感が湧かず、７月頃から準備を始めたのですが、なかなか当日までのスケジュールを立てたり、当日の想像をして、逆算して計画を立てたりするというのが難しかったです。

そのため、昨年実際に体験した実行委員の人から、実体験に沿ったアドバイスを皆さんに送る機会があれば良いのではないかと思いまして、提案させていただきます。

文化スポーツ部長

経験のある実行委員の方からアドバイスをいただいて、企画に繋げていくということは、大変有意義な、大事なことだと思っております。

人生の節目のお祝いをする二十歳のつどいですので、限られた時間を有意義に使って、一生の思い出となるような企画をする上で、先輩からのアドバイスをいただくというのは非常に大事なことだと思っております。

昨年はサポート委員が１名だけで、その前はコロナの関係でサポート委員がおりませんでした。先輩からお話を聞く機会がおそらく遅れてしまっていたりして、時間的に何が大事なのかなどがわからなかったかと思いますが、今後につきまして、サポート委員さんが出席されなくても、実行委員の皆様方の中から早めに出席をしていただいて、今回培った経験などを次の方にお伝えいただいて、より二十歳のつどいというものが良くなっていくようにご協力いただければと考えております。

来年はもう少し早い時期、実行委員会の早い回数のところでお話を伺うことができればと思っておりますので、今回実行委員になられた皆様方におきましては、ぜひ来年度そのような形でよろしくお願いいたします。

意見

今自分たちが次の代に引き継いでいくというようなお話をいただきましたが、成人式が終わった後に全員集めて、引き継ぎの会のようなものを開けば、皆さんの予定を合わせて、実行委員全員の意見を一斉に得られるという良いメリットがあるかなと思い、引き継ぎ会を開けばいいのではないかと思いました。

文化スポーツ部長

ぜひそのようにしていただければ、来年度滞りなく会の軸ができると思いますので、新たな取組としまして、そのような形をやっていただけたらよいかと思います。よろしくお願いいたします。

意見

私が応募した経緯としては、中学生のときに姉妹都市交流で行かせていただいた関係者にはがきが送られてきて、興味を持って応募させていただいたのですが、実行委員に応募する前の段階として、応募したいと思っている人が知り得る情報というものが、昨年度の様子という何枚かの写真くらいだったので、応募者を募集する段階で、もう少し市の方から情報発信がされると、そのような関係者以外でも、興味を持ってやってみようという方が増えるのではないかと思いました。

先ほどの引継ぎ会は、私自身もそれをすることでより深まるのではないかと思いました。二十歳のつどい実行委員会に参加して、二十歳のつどいの当日までは何度も打ち合わせをしてきたのですが、全体的な反省会というものはありませんでした。1 年間で交代するものは、引き継ぎをするのがとても難しいと感じていて、過去の情報がなければ、新しいアイデアを出すことも難しく、新しいアイデアを出すためには前回の反省を引き継いでいないと、また同じことの繰り返しでゼロからのスタートになってしまうので、現在の二十歳のつどい実行委員会の中でも、最終的な反省会というものをどこかでする機会を、事務局や市の方でとっていただけると、今活躍してくださっている実行委員の方も、次にどうやって引き継いだらいいのか考える場面として良いと感じました。

文化スポーツ部長

ぜひそのような反省会のような場を設けて、次へ繋げていけるような場をつくることができるといいと思っておりますので、持ち帰らせて検討させていただきます。

意見

私も中学３年生の時に行った少年の翼に参加したということで案内のはがきが来たと思いますが、少年の翼に行っていなくてはがきが届かなかったらおそらく実行委員会に参加していなかったと思うので、もっと二十歳になる人全体に向けて、全体がわかるような広報ができたらいいのではないかなと思います。

もちろん、現在の実行委員もやっていくべきことだとは思いますが、やはり市の協力も必要になることだと思うので、ぜひよろしくお願いします。

文化スポーツ部長

実行委員会のメンバーを集めるにあたりまして、市ホームページやＳＮＳなどで発信しておりますが、その期間が短い、何をやるべきかなど内容がよくわからないといったところがあると思いますので、今後についてもう少し期間を延ばしてみる、早めに周知するなど対策をしたいと思いますので、ご意見として預からせていただきます。

意見

もっと広く知らせてほしいという意見に賛成という話なのですが、私は少年の翼に中学校のときに参加させていただいて、当時研修に行きましたが、少年の翼に行った少し後に引っ越したというのがあり二十歳のつどい実行委員会の案内はがきが自宅に届かず、友人から実行委員会の葉書が届いたけどやってみないかという話がなければ気づかなかったので、もう少し広くお知らせとして連絡していただければなと思いました。

文化スポーツ部長

若い方々はホームページや、携帯やパソコンなどでＳＮＳを見ていきたいという方も多いと思いますので、そのような部分を少し充実する必要もあるのかなと感じましたので、今後努めてまいりたいと思います。

市長

本日は二十歳のつどい実行委員会の皆様方には、若い視点でのいろいろな行政に対するご意見ご質問等を頂戴いたしまして本当にありがとうございます。

行政の方の対応として、すぐに対応できる部分と、かなり時間がかかる部分、あるいは少し難しい部分もございます。

しかしながら、できるだけ皆様方のご意見を聞き入れて、市民の皆さんが快適に暮らせる、そういうような町を、さらに進めていかなければならないと考えておりますので、今後とも引き続きお気づきの点、あるいはご意見がございましたらご遠慮なくいろいろ寄せていただければと考えている次第でございます。

いずれにしましてもお時間を頂戴しまして、貴重なご意見を伺わせていただきまして、本当にありがとうございました。

大変簡単ですが、お礼のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。